

9年間を見通した人づくり

目的

本校は、平成23年4月に相生・引田小学校を統合し、引田中学校を併設して開校した新設校である。統合前の両小学校では全学年が単学級となり、人間関係の固定化による向上意欲の減退等の課題があった。中学校では校内の人間関係や学習の悩み等から不登校傾向を示す生徒が増加したり、学習意欲が停滞化したりするなどの課題があった。こうした背景を踏まえ、児童生徒が9年間を通じて、自他の成長を自覚しつつよりよい人間関係を構築する場を設定し、小・中教職員が連携して系統的かつ継続的な学習指導・生徒指導を行うことにより、児童生徒が心身共に健全でたくましく成長することのできる学校づくりをめざしている。

内容

● 小中合同研修会の開催

1 教科部会…公開授業週間を設け、その間に教科部会（小・中教員の専門教科）で授業を見合い、研修に生かすようにしている。教科部会の為の合同研修会は、部会ごとに放課後等で調整して行っている。

【第1回】 6月1日（水）～22日（水） 【第2回】 10月3日（月）～14日（金）

2 課題別部会…現職教育の時間に小中合同研修会をとり、課題別（人権・同和教育・道徳部会、総合的な学習の時間部会、生徒指導・特別活動部会、教育関係調査部会）の授業研究や各部会においての小中連携や共通理解事項について話し合っている。課題別部会では、小中合同研究授業・研修会の企画・運営、小中連携教育の研究等の達成状況の把握と取組の適切さに向けての検証、小中間での共通したルールづくりも行っている。

● 小・中教員の連携

中学校での教育相談に小学生の時の関わりがある教員が参加して話し合うなど、小・中間の連絡体制を密にし、いじめ、不登校等の問題への対応を連携して組織的に行うようにしている。また、中学校での部活動でも小学校の教員が副顧問になり、練習を指導したり、顧問が不在の時には中心となって指導を行ったりしている。教育計画も、小・中教員の話し合いにより9年間を見通した計画を立てている。そして、小・中学校が連携した生徒指導目標や共通の指導方針により、9年間の中で規範意識や善悪の判断ができる児童・生徒を育成するようにしている。

● 小・中教員による連携授業の実施

9年間を見通した確かな学力の定着や中1ギャップによる不登校の解消、小・中の学びの連続性を重視した分かりやすい授業を展開し学習に対する興味・関心・意欲をもたせるために、小学校高学年から中学校へのつながりを意識し、理科・数学・国語（書写）等、小・中学校の教員の交流授業を積極的に展開している。

● 小・中学生の積極的な交流

「全ての子どもを全ての教師で」を合言葉に、引田小学校と引田中学校の基本的な枠組みを活かしつつ、9年間を通した人づくりをめざして、小・中が可能な限り連携を深めるようにしている。

実施した小中合同（交流）行事&活動

始業式・終業式・入学式・避難訓練・運動会・秋桜祭（文化祭）・部活動紹介・中学校での一日授業体験・中学校での部活動体験・ALT着任式・合唱練習・ミニコンサート（昼休み）・絵本の読み聞かせ（小1&中1）



小中合同避難訓練（地震・津波）の様子

成果

連携授業や公開授業後の教職員の感想によると、お互いの学校の児童・生徒の様子や指導の仕方、専門的指導技術等について知ることができ、日々の授業の改善点や連携の在り方について考える契機となったようである。児童アンケートでは、「中学生といっしょの行事や活動は楽しい」と大多数の児童が回答していた。また、保護者アンケートでも、「小中連携が計画的で効果が上がっている」と回答した保護者が半数以上いた。